

矢作川流域圏懇談会

令和 4 年度
海部会 ふりかえり

令和5年1月24日（火）

1.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動スケジュール

《令和4年度の当初目標》

4つのテーマに対して情報共有と意見交換を行うだけでなく、情報を発信する。また、それぞれのテーマについて、相互に作用し合っていることを意識しながら、課題の解決手法について検討する。

＜テーマ＞

＜解決手法＞

ごみの問題

- ごみの問題は、三河湾だけではなく伊勢湾全体の課題であるため、より広い範囲での情報共有と発信を行うとともに、ごみ問題に関わる活動との連携をはかる。

豊かな海の再生
に向けた取り組み

- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を、山・川・海共通の課題として周知する。
- 豊川などの自然再生に関わる活動について、情報を共有する。

海と人の絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- アートやダイバーシティなど、新しい視点を体験・見学し、各種課題の糸口を模索する。

土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。

2.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動スケジュール

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第49回WG（22名）	5月26日（木） 13:30-16:00	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第50回WG（25名）	10月19日（水） 14:00-16:30	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
海・川合同部会FW・WG（24名）	11月22日（火） 10:00-16:15	・鵜の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・ 干潟造成箇所・西尾市文化会館
第14回海部会 まとめの会（●名）	1月24日（火） 14:00-16:30	・西尾市中央ふれあいセンター 南棟1階 第1研修室

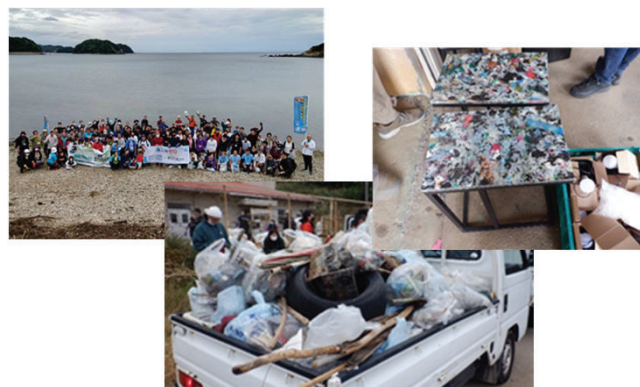
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

①ごみの問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

〈ごみの問題は、三河湾だけではなく伊勢湾全体の課題であるため、より広い範囲での情報共有と発信を行うとともに、ごみ問題に関わる活動との連携をはかる〉

- 10月8日～9日に開催された「22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会」の答志島合宿（海岸清掃）の参加報告を行い、答志島（伊勢湾）のごみの漂着状況や活動紹介について共有した。
- 第50回海部会WG（10月19日）にて、伊勢湾の海岸等で収集した海洋プラスチックを活用してアクセサリを作成・販売しているsobolonの山崎氏より、環境問題に対する想いや活動紹介について報告いただき、ゴミ問題に関わる活動との連携をはかった。
- 野田氏（矢作川環境技術研究会）より、豊川河口の六条干潟周辺での海岸清掃の様子と漂着ごみに含まれるマイクロプラスチックの状況について、生き物が生息するところにも多くのマイクロプラスチックが含まれていることを報告された。



答志島合宿（海岸清掃）の様子



海洋プラスチックを活用したアクセサリ（sobolon作成）

提供資料その2 海岸清掃、干潟の海ゴミ・マイクロプラスチック例（2022年夏季）



写真1 市民参加の海岸清掃（前芝干潟）開会式

写真2 同左：海岸清掃活動（前芝海岸～西浜大橋）

写真3 漂着した海ゴミ（防潮堤下の砂浜・満潮線）

写真4 同左（拡大）、マイクロプラスチック類

豊川海岸清掃についての資料（野田氏提供）

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

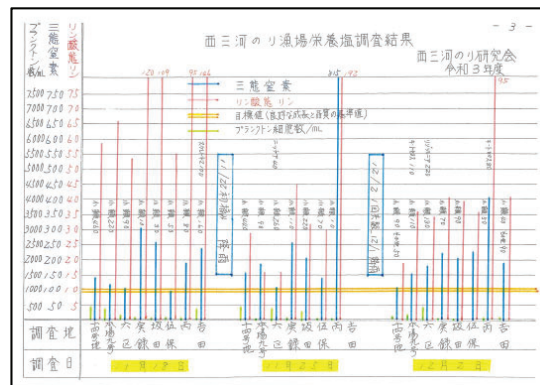
②豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う＞

- 第49回海部会WG（5月26日）において、吉田漁業協同組合の石川組合長より、アサリやノリの漁獲量の現状や海の栄養塩の状況等について情報共有がなされた。
- 栄養塩である窒素・リンが豊富であると、真っ黒な商品価値の高いノリが採れるが、近年では栄養塩不足のためノリの品質が下がっており、生産金額に影響がでている。それに伴い、ノリ養殖者の減少にもつながっている。現在、矢作川浄化センターの試験的なリン増量放流により栄養塩濃度が高くなってきており、漁場にプラス効果がでてきている。しかしながら、栄養塩を食するプランクトンのユーカンピアが発生していることが懸念する事項となっている。



ノリの標本をみている（第49回海部会WG）



ノリ漁場栄養塩調査結果（資料一部抜粋）
（吉田漁業協同組合の石川組合長提供）



アサリ肥満度（資料一部抜粋）

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

②豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を山・川・海共通の課題として周知する＞

「豊かな海の栄養源～きれいな海は豊かな海か?～」

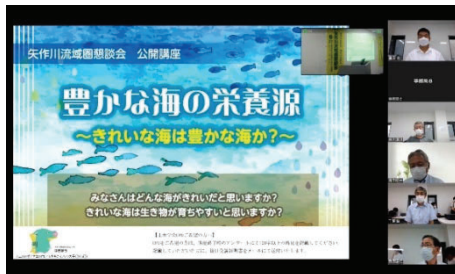
実施時期：令和4年8月20日（土）15：00～17：00

講師：京都大学名誉教授 藤原 建紀 氏

参加者：140名（ZOOM参加者127名、会場参加者13名）

YouTube再生数：158回再生（2023年1月20日時点）

- 第3回公開講座を実施し、オンライン配信やYouTubeを活用して、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を全国に発信した。
- 栄養塩不足に関する今後の対策として、干潟・浅場造成の経過観察を行うとともに、貧酸素水塊の状況を把握し海域への影響や生き物の状況を観察しながら、引き続き矢作川浄化センターでの管理運転を実施していく必要がある。



公開講座の様子（左：オンライン配信 右：会議室）

矢作川流域圏懇談会 公開講座

豊かな海の栄養源

～きれいな海は豊かな海か?～

みなさんはどんな海がきれいだと思いますか？
きれいな海は生き物が育ちやすいと思いますか？

田畑で農作物が豊かに育つには、窒素やリン肥料が必要のように、海においても多くの生き物が豊かに育つには、窒素やリンなどの栄養分が必要です。ところが近年、海の栄養分がだんだん減っています。このため、アサリやハマグリが育たなくなり、皆さんが大好きな潮干狩りができない海岸が日本の各地で多くなっています。今回は法改正を行った瀬戸内海の取り組みをご紹介します。果たして、きれいな海は豊かな海なのでしょうか？

本講座では、京都大学名誉教授の藤原氏を講師にお招きし、瀬戸内海の取組みについてお話しいただきます。この機会に是非、海の栄養不足について考えてみてください。

講師 藤原 建紀 氏
京都大学名誉教授

令和4年 8月20日(土) 15:00～17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加無料

土木学会CPD認定プログラム

申込方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込みください。
お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限：8月18日（水）17:00まで

専用フォームURL https://us06web.zoom.us/join/register/WN_sDNEe1h6tFSXmWEQrChUsw

主催 矢作川流域圏懇談会 協賛 株式会社 柳井
後援 公益社団法人 土木学会中部支部 E-mail: chir@tsumoto-shi.or.jp
TEL: 079-4024-9073 (受付時間 10:00～17:00)

公開講座案内用チラシ

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

②豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<豊川などの自然再生に関わる活動について、情報を共有する>

- 海・川合同部会（11月22日）において、自然再生事業の一環として実施されているヨシ原再生の現場を視察し、事務局より状況を説明した。
- ヨシ原再生事業では、ヨシ原に依存する鳥類（オオヨシキリ・オオジュリンなど）やカニ類（アシハラガニ、クロベンケイガニなど）の生息個体数の回復を目標に、多様な生物の生息環境の再生を目指している。
- 事業では、陸地化したところの水際を盤下げし、冠水頻度を高めることによりヨシ原を再生しており、ヨシ原再生事業により発生した土砂は海まで運搬し、干潟・浅場造成に利用している。
- 豊川での自然再生事業については、部会内での情報共有は未実施であった。→次年度（案）



ヨシ原再生箇所の様子



ヨシ原再生事業の解説の様子（海・川合同部会）



ヨシ原再生により発生した土砂（工事の様子）

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

③海と人の絆 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす>

- 矢作川感謝祭（9月18日）において、上下流連携の取り組みとして、東幡豆漁業協同組合と海の生き物展示の準備をしていたが、悪天候のため出展は見合わせた。
- 海・川合同部会（11月22日）において、西三河野鳥の会の高橋氏より、海鳥の昔と今の変化について、「干潟造成箇所では、かつては万単位のチドリの群れが飛び回っていたが、最近では激減している。」との報告がなされた。
- 川部会より、干潟観察会や生き物ふれあい観察会などのイベントを実施している西三河南部生態系ネットワーク協議会との共同連携について提案された。



海・川合同部会での解説の様子
高橋氏（西三河野鳥の会）

鳥名：シロチドリ
撮影場所：西尾市一色町
撮影者：高橋氏
(西三河野鳥の会)



西三河南部生態系ネットワーク
パンフレット（一部抜粋）

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

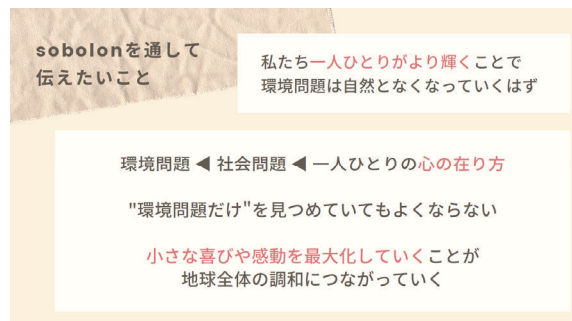
③海と人の絆 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アートやダイバーシティなど、新しい視点を体験・見学し、各種課題の糸口を模索する＞

- 第50回海部会WG（10月19日）にて、「可愛いで地球を守る」をコンセプトに、伊勢湾の海岸に漂着した海洋プラスチックを活用し、アクセサリーを作成・販売しているsobolonの山崎氏より、環境問題に対する想いや活動紹介を報告いただき、海ごみの利活用という新しい視点から海ごみの課題について意見交換を行うことができた。



第50回海部会WG全体の様子



山崎氏 (sobolon) による話題提供 (資料一部抜粋)



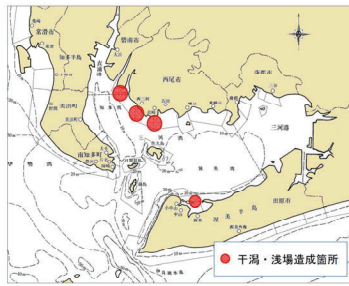
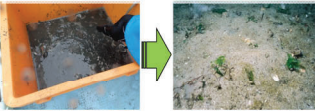

アクセサリーをみている様子

3.海部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

④土砂の問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う＞

- 海・川合同部会（11月22日）にて、鵜の首の掘削箇所（鵜の首地区水位低下対策事業）、ヨシ原再生箇所（ヨシ原再生事業）、干潟造成箇所（干潟・浅場造成事業）の現地視察および会議室での意見交換を行い、土砂の問題や活用事例について認識を深めた。

<p>【干潟・浅場造成事業の背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三河湾では1945年から1978年に開発事業により約1,200haの干潟・浅場が消失している ○干潟・浅場の減少により、海域の水質浄化機能が低下し、赤潮の増加や貧酸素水塊の拡大が問題となる ○水質浄化機能の回復や漁場造成のため、愛知県では干潟・浅場造成事業を実施してきた ○良質な造成材の確保が課題であったが、2021年度から国土交通省中部地方整備局と連携を図り、矢作川やダムの堆積砂を活用して事業を拡大している ○2021年度は河川砂約24,000m³、ダム砂約5,000m³を用い西尾市14号地先で6.2haの漁場造成工事を実施している 	 <p>図 干潟・浅場造成の実施箇所 (2015-2021)</p>	<p>【造成した干潟・浅場の管理および利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造成後は地元の漁業者および漁協が管理を行っている <ul style="list-style-type: none"> →アサリ稚貝放流による資源増殖 →ツメタガイ等の害敵生物駆除や耕耘 ○水産試験場の効果調査を継続して実施 <ul style="list-style-type: none"> →底質、底生生物などを調査し、造成から数年経過後も良好な底質環境が維持されていることが確認される →底質環境が改善し、多様な底生生物が加入することで、水質浄化機能が発現している ○西三河地区では2015年に約7千tあった漁獲量が、大きく落ち込んだが、2021年から漁獲量の回復が見られ2022年度も上向きである 	<p>底質の悪化箇所を土砂投入により環境改善</p>   <p>漁場として利用可能に</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

谷川氏（愛知県水産試験場）による話題提供（資料一部抜粋）



鵜の首の掘削の解説の様子



ヨシ原再生の解説の様子



干潟造成の工事の様子



集合写真（海・川合同部会） 10

4.海部会のアンケート結果 | 令和4年度

<アンケートの実施>

- 10月19日第50回海部会WGにおいて、アンケートを実施した。
- 質問事項「矢作川流域圏懇談会に求めていること（複数回答可）」

<アンケート結果>（懇談会員の参加者数：16人 うちアンケート回答数：9人）

- 情報収集（海に関する情報・他団体の活動報告）をしたい …… 7人
- フィールドワーク（見学や体験）をしたい …… 5人
- 活動報告や情報共有をしたい …… 4人
- グループディスカッションをしたい …… 4人
- 矢作川流域の課題等を外部に情報発信（イベントに出展・冊子作成など）したい …… 3人
- その他 …… 2人
 - ・所属団体に懇談会の情報や活動をフィードバックしたい
 - ・流域のつながり

<自由回答>

- 矢作川河口、下流、海岸での活動を増やしていただくと、情報共有と情報収集の両方につながる。
- 特定の課題に取り組む団体は行政も含めてたくさんあるが、流域圏という「面」で課題をとらえる団体は私の知るところではここしかない。しかし、構成メンバー（パンフレット記載）はやたらと多いが、参加者は多くない。
参加はしなくてよいが課題を共有するメンバーは増やしたい。
- 行政も議論に積極的に参加して欲しい。
- 部会合同でフィールドに出るのはとても良い。女性、若者の参加をもっとすすめていければと思う。
- 港湾整備に携わる上で、地域で、どのような活動をされているのか、どのような考えを持っているのか、課題は何か、など、いろいろと勉強させていただいた。

矢作川流域圏懇談会

令和5年度 海部会 活動目標

令和5年1月24日（火）

5.海部会の次年度の活動目標（案）

次年度の活動目標（案）

- 「豊かな海」の再生に向けた取り組みについて、経過観察状況の情報共有・意見交換を行うとともに、生き物や環境問題について新しい視点を取り入れるため、他部会や外部団体との連携を図る。

テーマ別の活動目標（案）

■ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報共有を行う。

■豊かな海の再生に向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。

■海と人との絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携を継続していく。

■土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

6.海部会の次年度の活動内容（案）

テーマ別の活動目標に対する活動内容（案）

赤字：部会内で行う活動案
黒字：部会以外での活動案

■ごみの問題

- ①奈佐の浜プロジェクト主催の海岸清掃活動等に参加し、伊勢湾で活動している団体との連携を継続する。
- ②昨年度、伊勢湾というより広い範囲に目を向けたことから、今年度は矢作川流域圏に目を向けて、流域圏でのごみ問題について他部会もしくは他団体に話を聞く。

■豊かな海の再生に向けた取り組み

- ①愛知県水産試験場や愛知県農業水産局に途中経過の状況を情報共有いただき、意見交換をする。
- ②アサリやノリの状況についてお話いただく。
- ③豊川の自然再生事業箇所を見学し、青木先生より、豊川の自然再生事業についてお話いただく。

■海と人との絆再生

- ①矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭において、海の生き物を出展し、上下流連携を図る。
- ②次年度（令和6年）以降に干潟・浅場造成箇所での生き物観察会の開催を目指し、今年度（令和5年）は、西三河南部生態系ネットワーク協議会主催のイベントに参加（生き物と触れ合い、協議会メンバーとの交流を深める）し、協議会との連携をはかる。
- ③干潟・浅場造成等による海の生き物の経過観察および現状について意見交換を行う。

■土砂の問題

- ①河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過状況について、豊橋河川事務所や愛知県農業水産局に情報提供いただき、主に川部会との意見交換を行う。
- ②数年後、本事例について外部に発信することを目指し、今後の土砂や生き物の動きについて取りまとめていく。